本気で学ぶ　丈夫で　心豊かな　本庄っ子

ほんじょう

令和８年度 10 月号
三田市立本庄小学校

HP にて日々の学習、学年・学校行事を伝える「今月のほんじょう」を掲載中　上の QR コードをご利用ください

道徳の学びを、自己の生き方に

本校では、こどもたち自身が自己のよりよく生きようとする心を見つめ、高めていこうとする力を培っていけるよう道徳科の研究に取り組んでいます。道徳の授業では、教材の主人公の生き方などに触れながら、こどもたちがそれぞれに感じたことを交流することを通して、自分自身を深く見つめることを大切にしています。そのため、「嘘をついてはいけない」など、決まりきったことを考える授業ではなく、答えが一つではない問いをクラスのみんなで話し合い、こどもたち一人一人が「なぜ、優しくすることが大切なのだろうか？」、「本当の友情って何だろう？」「ほかの考え方はあるだろうか？」と、一歩深めた問いを手掛かりにして考える授業や、「なるほど！」と思わず声がでたり、思わず考えたことをつぶやいたりする、こどもたちが目を輝かせて考える魅力的な授業を目指しています。

こうしたこどもたちが深く考える授業では、友だちと意見交流する「対話」は、自分とは異なる感じ方や価値観があることに気付き、考えを広げたり深めたりする上で、特に大切にしています。自分とは異なる考えに出会い、自分の考えが揺れたり、迷ったりすることも、自己を振り返ったり、これからの生き方について真剣に考える大切な学びとなるからです。

また、こうしたこどもたちの深い学びを支えるためには、先生が一人一人のこどもたちをかけがえのない存在として尊重し、こどもたちがよりよく生きていくことへの深い信頼が大切です。道徳の時間の学びが、こどもたちが生涯にわたってよりよく生きていくための支えとなるよう取り組みを進めていきたいと考えています。

10 月9日には、本校で三田市の指定研究発表会（道徳科）を開催します。これまで積み重ねてきた研究の成果として、こどもたちが友だちとの対話を通して、自分の考えを広げ、深めていく授業を公開します。発表会は、よりよい授業と学校づくりに向けた新たな出発点でもあります。参会いただく先生方から御意見をいただきながら、本校教職員一同、これからもこどもたちの豊かな心と、よりよく生きようとする力を育てる教育を着実に進めてまいります。

修学旅行～平和への願いを込めて～

9月27日から28日の二日間、広島へ修学旅行に行きました。

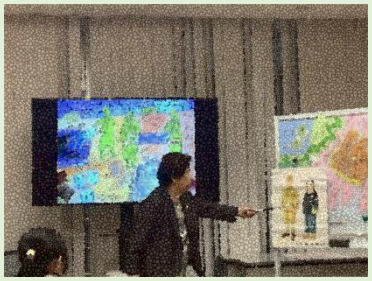
一日目の平和学習では、平和セレモニーで平和への思いを込めた平和宣言をしっかりと発表しました。セレモニーが終わった後、その様子を見ておられた方から、「とても思いのこもったセレモニーでした。平和を願う気持ちが伝わってきました。」と感想をいただきました。また、河野キヨ美さんのお話では、原子爆弾が落とされた直後の何もなくなってしまった町の様子、やけどやけがの痛みで苦しむ人々の様子など、あの恐ろしい光景は忘れることができないと語られました。

また、河野さんは「言葉には力がある。だからこそ、私は原子爆弾の廃絶と平和の尊さを伝え続けます。」と力を込めて子どもたちに語りかけてくださいました。真剣な眼差しで話を聞くこどもたちの姿からは、河野さんの思いをしっかりと受け継いでいこうというこどもたちの強い決意を感じました。













ヒロシマを考えることは戦争を拒否することです。
ヒロシマを考えることは平和に対しての責任を取ることです。
（ローマ法王平和アピールより）